



4月19日は「良いきゅうりの日」!

西三河冬春きゅうり部会が西尾市・安城市へキュウリ寄贈、 キュウリの出前授業 & ふれあい給食も

西尾市・碧南市・安城市などのキュウリ生産者で組織する「西三河冬春きゅうり部会」は、「良いきゅうりの日」である4月19日を前に、西尾市へキュウリを寄贈します（量は未定）。また同日、キュウリの若手生産者が白浜小学校を訪れ、キュウリに関する出前授業を行います。その後の「ふれあい給食」では、児童とともにキュウリの丸かじりを楽しみ、食と農に理解を深めます。

安城市内でも同日、同地区のキュウリ生産者が市へキュウリを寄贈するとともに、小学校でのふれあい給食を行います。



ふれあい給食で恒例の「キュウリの丸かじり」



キュウリの出前授業のようす→

西尾市での開催予定

《西尾市へのキュウリ寄贈》

【日時】4月17日（金）9:00～

【場所】西尾市役所 3階市長室

【部会側出席者】

西三河冬春きゅうり部会

副部長 糟谷英幸

監事 伊藤高義

その他、愛知県・JA西三河・

JAあいち経済連担当者ら

《キュウリ出前授業・ふれあい給食》

【日時】4月17日（金）11:40～

【場所】白浜小学校 2階会議室

【参加児童】5年生・6年生 計39名

【部会側参加者】

キュウリ生産者 安藤元哉、高須淳一

秋山二允、牧克洋

【スケジュール】

11:40 キュウリ出前授業

12:30 ふれあい給食

※13:15頃の終了を予定しています



4月下旬から5月上旬は冬春キュウリの生産量が一番多くなる時期。

この時期の消費拡大を狙い、西三河冬春きゅうり部会は、新鮮な「三河みどり」の消費PRにつなげようと2008年、4月19日を『良いきゅうりの日』として全国記念日協会に登録しました。

これ以後毎年同部会では、西尾市や碧南・安城市への学校給食用のキュウリ寄贈や、小学校でのキュウリ出前授業、児童とのふれあい給食を行い、キュウリの魅力を子どもたちに伝えています。

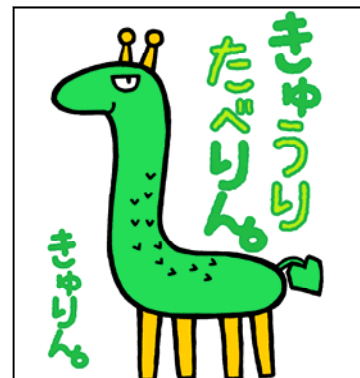
愛知県No.1の出荷量を誇るキュウリ産地！

～新鮮で歯触りのよいキュウリを県内へ～

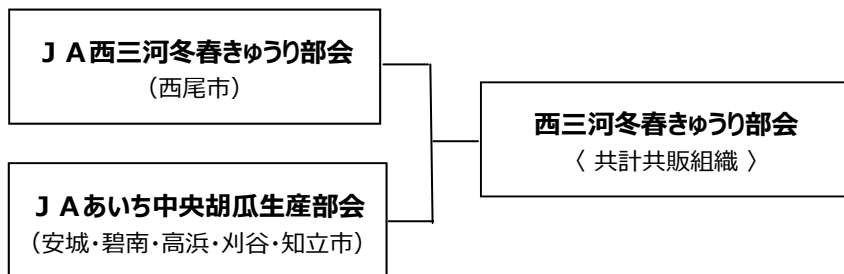
■西三河のブランドキュウリ「三河みどり」■

愛知県のキュウリ生産の中心地が、この西三河地域。露地栽培では夏にかけて栽培されるキュウリですが、**愛知県では冬から春にかけて加温されたハウスの中で栽培を行う「冬春キュウリ」が主流**。11月から6月上旬まで生産・出荷を行っています。

西尾市の冬春キュウリ生産者で組織する「JA西三河きゅうり部会」と、安城・碧南・高浜・刈谷・知立の5市のキュウリ生産者で組織する「JAあいち中央胡瓜生産部会」は、ともに共計共販組織「西三河冬春きゅうり部会」を組織し、**「三河みどり」のブランド名でキュウリを販売しています**。その出荷量は、県内で生産される冬春キュウリのおよそ半分を占めています。



西三河冬春きゅうり部会のキャラクター「きゅうりん。」



JAの選果場で選別

「三河みどり」の特徴

鮮度の高さはピカイチ！

主に愛知県内の市場へ出荷しているため、消費者のもとへ届くまでの期間が短く、他産地よりも新鮮な状態で消費者のもとへ届きます。

また部会内でのノウハウの共有やICT機器を活用した厳密な栽培環境制御などに取り組み、より高品質なキュウリ生産につなげています。



キュウリの栽培施設
真冬でも高温多湿の状態に保たれています

【組織情報】（部会員数・出荷量等は2018年度）

名称：西三河冬春きゅうり部会

部会員数：95人（西尾市のJA西三河きゅうり部会、碧南・安城市中心のJAあいち中央胡瓜生産部会の2部会で構成）

出荷先：愛知県内（約60%）をメインに、東海・北陸地方

出荷量：5,334ト（愛知県の冬春キュウリ生産量の50%以上）

販売額：約147億円

（全国の生産概況）

全国のキュウリ出荷量：476,100ト（うち冬春キュウリ：280,500ト）

愛知県のキュウリ出荷量：11,500ト（うち冬春キュウリ：9,910ト）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）平成30年産公表資料

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/index.html

10㎡当たりの収量（反収）は
全国平均の2.7倍！
高い技術力で高反収を実現

※新型コロナウイルス流行に端を発する昨今の社会情勢を鑑み、開催を延期・中止する場合がありますので、ご了承ください。